

首相の前日の行動をまとめた欄が総合面などにあります。国の行政権の最高責任者である首相の1日の動きは、「首相番」と呼ばれる若手記者がはり付き状態で取材しているといえます。首相がいつ、どこで、だれに会ったか、どこへいったか、などは政治の動きを探るカギになるからです。記者会見などでは得られない情報を入手するヒントがあるでしょう。朝日新聞では「首相動静」というタイトルですが、他紙では「首相日々」「首相の一日」「安倍日誌」などとなっています。このような欄は全国のほとんどの新聞にあるようです。地方紙の場合は通信社からデータを得ているのだと思います。

数年前ですが、新聞スクラップコンクールの応募作品に、この「首相動静」を取り上げて上位賞に輝いた中学生がいました。1年分をスクラップ帳に貼り、登場人物一人ひとりについて登場回数を調べてグラフ化し、首相がどういう人たちとつながりが強いかなどを考察した労作でした。この中学生のようにまとめる他にも、同じ日の複数の新聞を比べて、違いを調べてみても面白いでしょう。会談・会食した人を政治家、経済人、文化人などで分類して表やグラフにしてもよいでしょう。

ところで、首相とはどんな意味でしょう。広辞苑によりますと、「内閣総理大臣の通称」という意味の他に、「首たる宰相」とあり、宰相については、「古く中国で、天子を輔佐して大政を総理する官」とされています。新聞では総理大臣を「首相」とするのと同様に、各大臣は「〇〇相」と呼ばれますが、記事にするときに文字数が少なくてすむことから広く使われるようになったと考えられます。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)